

(仮称) 那覇市DX推進計画(案)に対する市民意見への回答

○募集期間：令和5年2月8日～令和5年3月8日

○意見提出件数：9件(提出者数4名)

No.	該当箇所	ご意見(概要)	意見に対する回答
1	全体	非常に分かりにくい。抽象的表現ばかりで、DXにより何ができて何ができないのかよく分からない。このような資料で意見を求めること自体、意見を聞きたくないように思える。少なくとも現在の業務をリストアップして何がDX化できるのか、それぞれにどのような問題点があるのか示すべきである。	分かりにくい印象を持たせたことに対して真摯に向き合い、今後、アクションプランで設定している個別の取組を進めていく過程で、取組の方向性や進捗状況を分かりやすく発信していけるよう努めてまいります。
2	全体	DXは急務であり、先進国では行政手続きの七割程度はネットでできると聞く。スピード重視でやって欲しい。	本市においても、DXの取り組みは急務と捉えております。本計画P8では、行政のDXを短期かつ重点的に取り組んでいくことを示しております。
3	P19, P20	「テックアドバイザー(P19)」と「テックリーダー(P20)」、また「デジタル化推進メンバー(P19)」、「デジタル化推進員(P20)」は同義であるか。	「テックリーダー」と「テックアドバイザー」は同義になることから、P20記載のテックアドバイザーはテックリーダーに修正します。デジタル化推進メンバーは各課のデジタル化を推進する職員となり、役割により、「デジタル化推進リーダー」と「デジタル化推進員」に分けられます。
4	P21	図書館トラブルは那覇市民にとって衝撃的であった。システム関係のトラブルは何が原因なのかを明確に市民へ伝えることはできないか。 原因を公開することを避けたいかもしれないが、どういったことが原因だから今後はどんなことに取組むということが分かると市民として安心である。	デジタル化を進めるにあたり、利用者の情報セキュリティに対する不安を払拭していく必要があると認識しております。トラブルに対する詳細の原因や対応策については、セキュリティ上の観点から公表する難しさを含んでおり、公表できる範囲を見極めながら適宜対応してまいります。

		セキュリティ対策を万全に行う、セキュリティ対策を見直すだけでなく、「発生した際、原因が判明した場合には市民に伝える」ということいただけると大変心強い。(セキュリティポリシーにその部分が含まれるのであれば、それで構わない。)	
5	P27,P31	外国人の移民が増えている。 市行政だけでなく、教育委員会、医療などに関しても、言語課題で市民生活から排除される人々がないよう、多言語のデジタル化を中心に、市民生活、教育現場でも、配慮を広げて、モデル都市になって、市外や県外にも示して欲しい。	デジタル化の推進と同時に多言語化についても重要であると捉えております。引き続き行政サービスのデジタル化を進めていく過程において検討してまいります。
6	P45	健康診断後に「要支援指導」を受けた市民に対する運動の勧めとして、OKiCA など既存 I C カードや市販歩数計などを利用した健康促進に寄与する取組をしてはどうか。支援資料をデータ化することでペーパーレス化の推進にもつながる。	ご提案いただいた内容については事業効果も見据えながら、個別のアクションプランを検討する過程で検討してまいります。
7	P47	DX を推進するにあたって、那覇市行政と市民の橋渡しをする「DX 人材」を積極的に採用してほしい。	DX の取り組みの進捗状況に応じて、臨機に人材の確保に努めてまいります。
8	P55	チャット bot の利活用はもちろんのこと、市役所庁舎内、各支所内の案内とチャット bot を合わせたシステムの構築をお願いしたい。	ご提案いただいた内容については事業効果も見据えながら、個別のアクションプランを検討する過程で検討してまいります。
9	P35	那覇市 LINE 公式アカウントに加え、ガラケー利用者向けに「+メッセージ」公式アカウントの活用を考える。	ご提案いただいた内容については事業効果も見据えながら、個別のアクションプランを検討する過程で検討してまいります。